

ベビーリーフの品目特性と土耕栽培技術

ベビーリーフは、近年サラダ商品の原材料として消費ニーズが高まっています。また、軽量作物のため作業の負担も少なく遊休ハウス等の活用が可能なことから、生産ニーズも高まっています。そこで、(地独)北海道総合研究機構・農業研究本部・道南農業試験場では、ベビーリーフの品目特性の解明と土耕栽培における省力的な栽培技術を開発し、その成果を「ベビーリーフ栽培マニュアル」に取りまとめ公表しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. ベビーリーフの品目毎の特徴としては、アブラナ科は生育が早くビタミン C 含有量(以下 VC)が高く、キク科は生育が遅く VC が低い。なお、アカザ科では「デトロイト」がキク科に近い特性で、「スピナッチ」はアブラナ科に近い特性を示します(表 1)。
2. 播種量は春先の 4 月及び 5 月作期では 2000 粒/m²、それ以外の作期では 1000~2000 粒/m²とし、「ロロロッサ」及び同じキク科の「ロゴグリーン」、「イタリアンレッド」、「きわめ中葉春菊」では通年 2000 粒/m²とします。
3. 1 作あたりの窒素施肥量は 6 g/m²(6 kg/10a)とします。
4. 播種機あるいはテープシーダを利用すると、作業時間はそれぞれ約 15 秒/m²/人、18 秒/m²/人となり、播種作業速度は手播種の 10 倍以上となります。
5. 収穫・調製の作業時間は、機械収穫で約 4~9 分/m²/人、包丁+補助具収穫で約 6~10 分/m²/人で、作業速度はハサミ収穫に比べてそれぞれ約 2.5 倍、2 倍となります。
6. 以上の結果をもとに、生産者向けのマニュアル(図 1)を作成し公表しています。

表 1 北海道道南地域における品目別生育、収量及び品質特性

科	品目 ^a (作物名)	葉の特性				生育 ^b	収量 ^c	VC ^d	日持ち ^e	その他特性
		形状	色(葉身/葉脈)	生育 ^b	収量 ^c					
ア	ピコグリーン(こまつな)	楕円	緑/緑	4	4	5	3			
	早生ミズナ	へら欠刻	緑/緑	4	4	4	3			
	ターサイ	楕円	緑/緑	3	4	4	3			
	ルッコラ	楕円~頭大羽状	緑/緑	3	2	5	3		ごま風味あり	
ブ	グリーンケール	楕円歯状	緑/緑	3	2	5	3			
	レッドケール	楔欠刻	緑/赤	3	2	5	3			
ナ	グリーンマスタート(からしな)	楕円鋸歯縁	緑/緑	3	3	4	3		辛味あり	
	レッドマスタート(からしな)	楕円鋸歯縁	赤~緑/赤	4	2	5	2		辛味あり、高温期に葉身の赤みが薄い	
	グリーンからし水菜(からしな)	へら欠刻	緑/緑	3	4	5	2		辛味あり	
	レッドからし水菜(からしな)	へら欠刻	赤/赤	3	3	4	2		辛味あり、高温期に葉身の赤みが薄い	
キ	ロゴグリーン(リーフレタス)	楔波状縁	緑/緑	1	4	1	3			
	ロロロッサ(リーフレタス)	楔波状縁	赤/赤	1	4	1	3			
	グリーンオーガ(リーフレタス)	頭大羽状	緑/緑	2	3	1	2			
	レッドオーガ(リーフレタス)	頭大羽状	赤/赤	2	2	1	4		高温期に葉身の赤みが薄い	
ク	グリーンロメイン(ロメインレタス)	楔	緑/緑	2	3	1	5			
	レッドロメイン(ロメインレタス)	楔	赤/赤	2	4	1	3		高温期に葉身の赤みが薄い	
	エンダイブ	楔波状縁	緑/緑	1	3	2	3		苦味あり	
	イタリアンレッド(チコリー)	へら	緑/赤~緑	1	1	2	3		苦味あり	
	きわめ中葉春菊	羽状複葉	緑/緑	2	3	1	2		やや抽台しやすい	
ア	グリーンスピナッチ(ほうれんそう)	楕円	緑/緑	3	3	3	4		長日目に抽台	
カ	レッドスピナッチ(ほうれんそう)	ほこ	緑/赤	3	3	4	4		長日目に抽台	
ザ	デトロイト(チープルビート)	長楕円	緑/赤	2	4	2	4		多胚性	

^a販売品名で表示

^b4月~10月延べ8作期の平均値より、4(生育日数18日未満)~3(20日)~2(22日)~1(24日以上)を基準に決定

^c延べ8作期期*22品目の平均値より、5(収量多,VC高,日持ち長)~3(収量550g/m²,VC400ppmF.W.,日持ち17日)~1(収量少,VC低,日持ち短)を基準に決定



図 1 栽培マニュアル

☆ 活用面での留意点

1. 「ベビーリーフ栽培マニュアル」は次の URL からダウンロードできます。
http://www.agri.hro.or.jp/dounan/crops/manual/babyleaf_manual.pdf
2. 詳しいことは、道南農業試験場・地域技術グループ(TEL:0138-77-8116)へお問い合わせください。(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)